

安全・安心ハンドブック

子ども編

横浜市



家庭のルールを守ろう



地域の活動に目を向けよう

子供

を

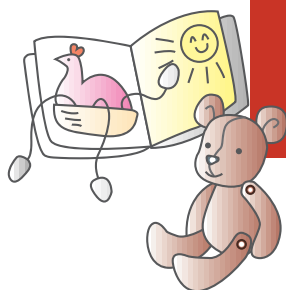
守

り

育

て

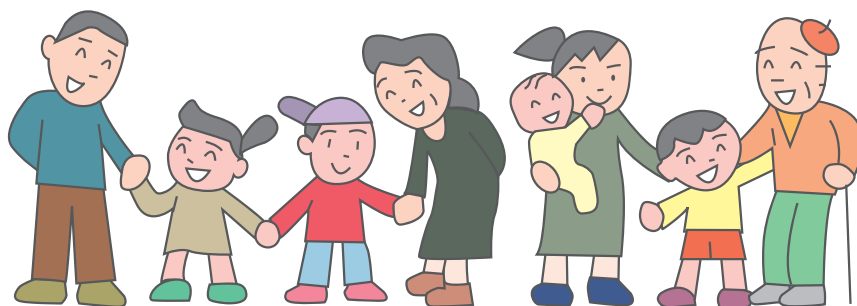
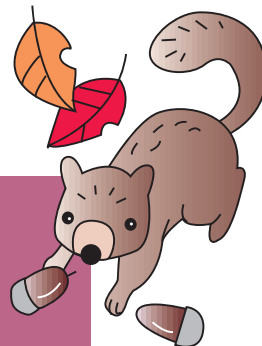
る



一人では遊ばない



子どもたちを見守る



保護者と地域の人たちが、一緒になって子どもと向き合っていく

安全・安心ハンドブック（子ども編）

子どもを守り育てる

子どもを取り巻く犯罪事情 1

- 誘拐、連れ去り
- いたづら
- 子どもの犯罪

子どもの目線に立って、防犯対策の指導を 4

- 危険を回避する心構えを身に付けさせましょう
- 犯罪に対する正しい知識を持たせてあげましょう
- 子ども一人ひとりと向き合ってください

地域の人たちと一緒に、子どもと向き合える環境を 6

子どもたちへ こんなことしたら、どうなる？ 8

●発行 平成18年3月

改訂 平成26年4月

横浜市民局市民協働推進部地域防犯支援課

〒231-0017 横浜市中区港町1-1

TEL 045-671-3705 FAX 045-664-0734

●広報印刷物登録番号 第170575号 類別・分別 BDA030

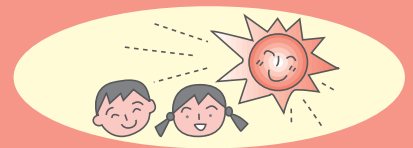
R100

古紙配合率100%再生紙を使用しています

横浜市では、市民とともに安全・安心で快適な地域を実現していくため「よこはま安全・安心プラン」を策定し、市民の取組に積極的に関わり、支援を進めていこうとしています。

このハンドブックは、プランの実践編として、子どもを取り巻く悪い環境から、子どもを守るために、小学生くらいまでのお子様を持つ保護者の方、あるいは親しい子どものいらっしゃる大人の方に取り組んで頂きたい基本的なことをまとめたものです。お子様と一緒に読んでみてください。

子どもを取り巻く犯罪事情



近年、子どもを取り巻く環境の悪化が目立ってきています。子どもへのいたずらや暴行・虐待、連れ去りや誘拐など、子どもが被害者となる事件が多発している一方で、万引きや自転車窃盗、ひったくり、薬物乱用、援助交際など、子どもが犯罪者の側になってしまう事件も広がってきています。

誘拐、連れ去り

…子どもが油断する瞬間を待っています

誘拐、連れ去り事案の多くが、子どもが一人でいるところを狙われています。時間帯は、午後3時～6時が多く、学校からの下校中や帰宅途中に、自宅および学校周辺などの身近な地域で犯罪にあっています。犯人が顔見知りだったケースもあります。

こんな言葉に気をつけよう!!

親子でお読みください

「一緒にゲーム
をしようよ」

「犬が迷子になって
困っているんだ、
一緒に探して」

「おうちの人が
病気だから、一緒に
病院に行こう」

「道を教えて」



人のいないところに連れて行かれちゃうよ。



無理やり車の中に入れられちゃうよ。

子どもを取り巻く犯罪事情

いたばら

…自宅や、自宅の近くであっても注意が必要です

<自宅で>

エレベーターや、階段や踊り場、屋上などで、身体を触られたり、手を引っ張られて物陰に連れて行かれるといったケースが見られます。

なかには、自宅のカギを開けた瞬間に、突然後ろから室内に押し込まれたり、集金や配達員などを装ってドアを開けさせ、室内へ入ってきたりといったケースも見られます。

<駐輪場などで>

自転車を置こうとしたときに、突然後ろから抱きつかれたり、公園で遊んでいるときに、路地や公園の樹木の影、公衆トイレなどに連れ込まれたりといったケースが見られます。

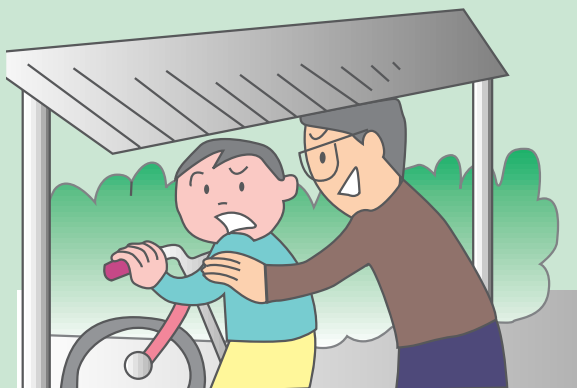
親子でお読みください 家や、家の近くでも気をつけよう!!

公園や道路、駐車場や廊下・階段で、一人で遊んでいると…。

自転車をとめるときに、まわりに注意していないと…。

子どもだけで留守番しているときに、家のドアをあけちゃうと…。

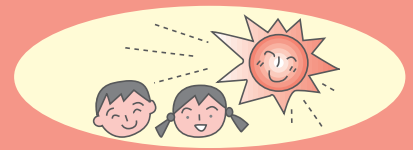
家のカギを開けるとき、まわりに注意していないと…。



突然あやしい人が出て来たら、人のいないところに連れて行かれちゃうよ。



あやしい人がやって来たら、家の中に入られちゃうよ。



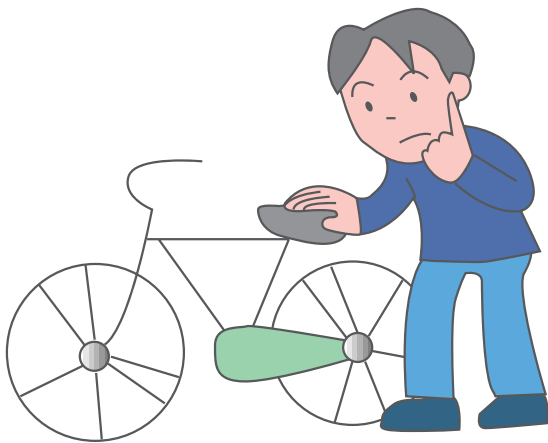
子どもの犯罪

…子どもが加害者側になることもあります



<お店で……万引き>

「これが欲しかったから」といった理由だけでなく、「スリルを味わいたかった」「これくらいできないとカッコ悪いと思った」といった遊び感覚で、万引きをするケースがあります。盗んだ商品の換金を目当てに、万引きを行うケースも増えてきています。



<外で……自転車盗>

「歩くのがめんどろだった」「カギがかかっていなかったから、乗っても良いのかと思った」「また元の場所に戻せば大丈夫だと思っていた」などの理由で、他人の自転車を黙って乗ってきてしまうケースがあります。

<家で……お金を無断で持ち出す>

ふとお金が欲しくなって、親の財布や兄弟の貯金箱から、お金をだまって持ち出してしまうケースがあります。子どもは、嘘をついて隠し続けなくてはならなくなってしまいます。



このような子どもの犯罪は、「つい何気なく」やってしまうことも多いですが、繰り返しているうちに、善悪の判断が付かなくなってしまいます。自転車盗がオートバイ盗に発展し、盗んだオートバイでひったくりをやってしまったり、家からお金を持ち出すだけでなく、他人のお金も狙うようになり、ひったくりや恐喝、路上強盗などへと凶悪化してしまうこともあります。

子どもの目線に立って、防犯対策の指導を

1 危険を回避する心構えを身につけさせましょう

子どもを犯罪から守るには、保護者はもちろん、子ども自身の意識づくりも必要です。子ども一人ひとりが「危険を回避する心構え」を持ち、いざというときに対処できるように、日頃のコミュニケーションの中で、防犯対策を話し合っておきましょう。

親子でお読みください 家族で守るルールにしよう!!

まいにち き 毎日気をつけます

- ひとり あそ 一人では遊ばない。
- し ひと 知らない人には、い ついて行かない。



こわいとおも こわいと思ったときは…

- おお こえ さけ 大きな声で叫ぶか、ブザーやホイッスルを鳴らす。
- ちか みせ こ ばん いえ 近くのお店や、「子ども110番の家」などに逃げ込む。

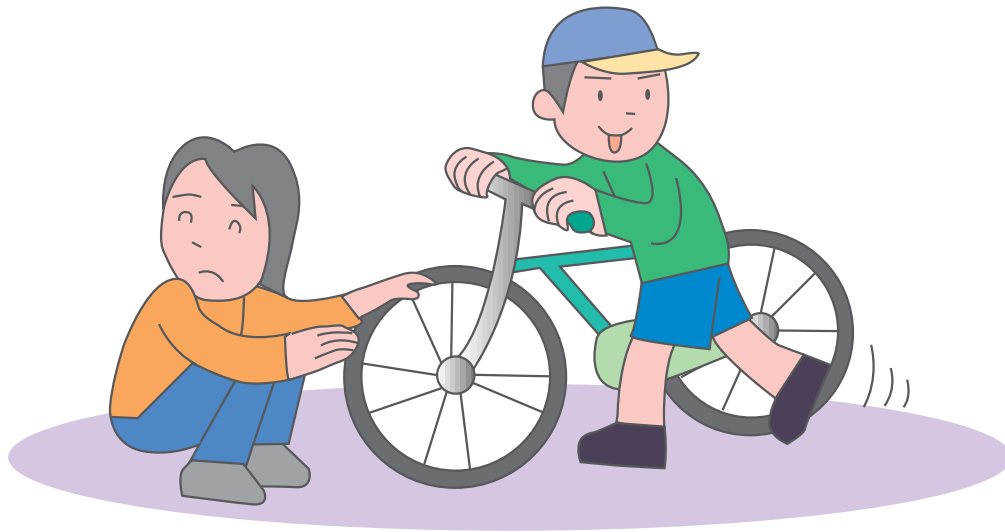
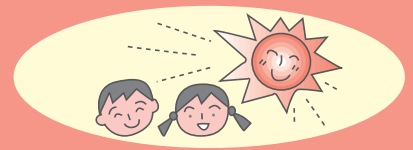


で 出かける前は…

- 「だれ どこ あそ 誰と」「どこで」遊ぶのか、「いつ どこ い 何時ごろ、家に帰るか」を、家の人に言うてから出かける。



いえ ひと いっしょ つうがくろ いえ きけん ぼしよ まん いち に こ
家の人と一緒に、通学路や家のまわりの危険な場所などで、万が一のときに逃げ込む「子ども110番の家」などの場所を、チェックしておこうね。



2 犯罪に関する正しい知識を持たせてあげましょう

一方で、子ども自らが犯罪に加担してしまうケースも増えています。罪の意識を感じないまま、万引きや自転車の窃盗を行ったり、「他人に迷惑をかけなければ」と言って、薬物乱用や援助交際に手を出してしまうケースもあります。

一人ひとりが「犯罪に関する正しい知識」と「やって良いこと、悪いことを区別できる良識」を持てるよう、日々の会話の中で、保護者や周りの大人が教えてあげることが大切です。

こんな変調、気にかけて！

- 帰宅が遅くなった
- 服装が派手になった
- 親が知らないものを買っている
- 部屋にこもるようになった
- 口数が減り、学校の話をしなくなった

3 子ども一人ひとりと向き合ってあげましょう

子どもにとって、相談する相手や頼る人がなく、誰からも見守られていないと感じることは、とてもつらいことです。子どもを悪の道へ走らせることにもなりかねません。

子どもへの関心を示すことで、子どもは安心します。日頃からコミュニケーションをとり、子どもにちょっとした変化が見られたら、「何かあったの？」と問いかけてください。

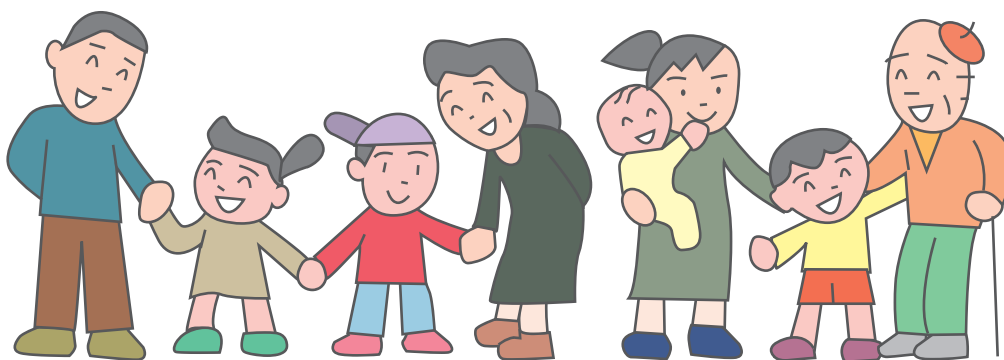


地域の人たちと一緒に、子どもと向き合える環

保護者と地域の人たちが、一緒になって子どもと向き合っていく そのような環境をつくりましょう

「地域に住んでいる子どもは、地域の大切な宝である」と考えている地域の人たちも、数多くいます。そのような人たちと一緒に、子どもたちを守り育てていってはどうでしょうか。

「子どもの話に耳を傾ける大人の姿」「子どもの安全のために真剣に取り組む地域の姿」を子どもに見せてあげましょう。子どもたちは、地域に対する「安心感」や「心強さ」を抱いてくれるはずです。



子どもたちを見守る

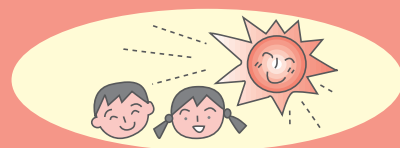
まずは、一人ひとりの保護者が家の外に出て、自分たちの子どもの見守りをはじめてみましょう。

さらに、「いろいろな場所で」「より多くの時間に」「たくさん大人の目で」子どもたちを見守ってあげられるように、地域の人たちと協力して、取組を広げていきましょう。



取組の例

- 登校時に、家の外へ出て、子どもたちとあいさつをする
- 登校時に、近所の大人たちと協力して、近くの通学路に立つ
- 登下校の時間帯に合わせて、庭いじりや犬の散歩、買い物をしてもらうよう、呼びかける
- 地域の人たちと協力して、学校内や子どもが集まるお店などを見回してみる
- 子どもたちと、通学するルートに危険な所はないのか、チェックする



地域の活動に子どもたちの目を向けさせる



子どもは、地域の人たちから「だまって守られている」だけの存在でいいのでしょうか。地域の人たちが日ごろ行っている活動に目を向け、ときには参加していくことを、地域の人たちは望んでいます。

子どもにとっても、より深く地域を知り、より多くの頼れる大人と出会うことができます。いざ危険が迫ったときに、自分から助けを求められるかどうかは、日頃の地域とのお付き合いが物を言うのではないのでしょうか。

取組の例

- 保護者が子どもにお手本を見せる（近所の人たちとあいさつをするなど）
- 地域でどんな活動が行われているのか、子どもに説明してあげる
- 地域が開催するイベントや活動に参加する

地域の活動って？

防犯活動（パトロールなど）、清掃活動、花いっぱい活動、福祉ボランティア、子ども会活動、防災訓練、お祭りなど、多数行われているはずです！

コラム

「子ども110番の家」の上手な活用（日頃からのつながり）を考えてみましょう

「子ども110番の家」は、地域と子どもを結ぶ架け橋になる可能性を秘めています。あるまちでは児童が作成した案内表示を「110番の家・店」を中心に掲示する取組を行なっています。そのほか、110番の家を親子で回る「110番の家ウォークラリー」や、実際に危険が迫ったときを想定した「110番の家避難訓練」、協力家庭への感謝を示す「110番の花贈呈大会（と、その後の定期的な水やり）」など、様々な交流が考えられます。

子どもたちへ こんなことしたら、どうなる？

本屋さんからマンガを取ってしまったり、コンビニエンスストアからだまってお菓子を持ってきてしまったり……。道路や公園、駅などにおかれていたり、自転車置き場にとめてある他の人の自転車を、かっさに乗ってきてしまったり……。

まんびき
万引きされたお店の
こと
も
かんが
えよう

見つからなければ、とっても大丈夫でしょ

まんびきくらいたいした問題じゃないよ



めす
盗んだことに、
かわりありません

み見つかったからお金をはらうよ

み見つかったら、あとで品物を返せばいいや

みここのお店の人に、この前おこられたし、仕返しだあ

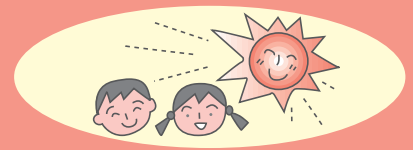


わる 悪いことをすると…



- お父さんやお母さんは、とても怒ります！！
- おじいちゃんやおばあちゃんは、とても悲しみます。
- 「やらなきゃよかった」と思うんじゃない？





これは「万引き」や「自転車どろぼう」という犯罪です。こんなことから
大きな犯罪につながります。ゼッタイにやってはいけません!!



ダメ

万引きくらい
できないと
かっこわるいよ

仲間はずれは嫌だし、
みんなでやれば……

友だちに
言われたからって、
やってもいいの？



ダメ

家まで歩くの、
めんどくさい

ちょっと借りる
だけだし、あとで
戻せばいいや

カギをかけてな
いから、取っても
大丈夫でしょ

自転車をとられた
人のことも考えて!

やっぱり、ゼッタイにやめましょう!



- 万引きされたお店の人は、とても困ります。
- 自転車を盗まれた人は、とても悲しみます。
- 自分のものがなくなっていたら、どう思いますか？

こんにちは！ パト・ハートです！



「パト・ハート」

あいさつ大好き。お散歩大好き。
地域みんなの心が防犯に通じると信じている。
安全・安心できるまちづくりを目指し、日々防犯パトロール中。

子どもの安全や防犯に関する活動に、より親しみをもってください、
子どもたちを地域みんなで守っていくための「シンボルマーク」です。